

生薬解説 394 みー2

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
		中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
みー2	みょうばん 明礬 (礬石)	酸・渋・寒 肺・脾・大腸・肝・胆	1～3g丸、散に入れる。 外用には適量。
	天然の明礬石を精製した結晶	<p>中医生薬解説</p> <p>解毒医瘡・収湿止痒 癰疽瘡毒（皮膚化膿症）に、雄黄と粉末にし濃茶で調製して外用する「二味拔毒散」。膿性の耳漏に、鉛丹と粉末にし耳内に吹き込む「治膿耳方」。鵝口瘡に、竜腦・黄柏などと粉末にし外用する。湿疹、疥癬に、硫黄・竜腦などと粉末にし外用する。</p> <p>洗腸止瀉・収斂止血 慢性の下痢、血便、不正性器出血、帯下などに、五倍子・訶子・五味子などと用いる「玉関丸」。</p> <p>祛風痰 中風痰厥の意識障害、喘鳴、痰がつまるなどの症候に、皂角・半夏・生姜汁などと用いる「稀涎千縉湯」「稀涎散」。</p> <p>癲癩に、鬱金などと用いる「白金丸」。</p> <p>清熱退黄 湿熱の黄疸に、硝石などと用いる「硝石礬石散（湯）」。</p> <p>使用上の注意 「多服すると心肺を損傷する」といわれるので、多量に服用しない。虚証には用いない。</p>	
		<p>中医以外の生薬解説</p> <p>神農本草経 味酸寒、寒熱洩痢白沃陰蝕惡瘡目痛を主どり、骨齒を堅め、煉りて之を餌服すれば輕身不老増年。</p> <p>新古方薬囊 味酸寒、血氣を収むる効あり。</p>	